

リカバリーを目指す認知療法の国内適用に向けた 日本語版マニュアル作成に関する研究

分担研究者：耕野敏樹
岡山県精神科医療センター

研究趣旨：

現在の統合失調症に対して有効性が実証されている認知行動療法については、英国では個人での適用が推奨されているが、米国で開発された Recovery-Oriented Cognitive Therapy (以下 CT-R とする) では集団での適用が可能となっている。エビデンスに基づく実践の国民性を越えた適用において、翻訳作業が必要とされているが、本邦では CT-R のマニュアルの翻訳がなされていない。そこで、マニュアルの翻訳作業を行う。

A. 研究目的

統合失調症を有する患者に対する集団精神療法の可能性について明らかにする。国内で適用できる可能性のあるプロトコールのマニュアルを翻訳し、今後の研究のための準備を行う。

B. 研究方法

Recovery-Oriented Cognitive Therapy (CT-R) のマニュアルとして出版された “Recovery-Oriented Cognitive Therapy for Serious Mental Health Conditions” を対象として、2022年1月～2022年11月まで、合計15名の専門家と協議しながら、訳語の抽出、訳語の検討を行い、翻訳を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は人を対象とした研究ではないため、同意の取得や匿名化などの配慮は必要ない

C. 研究結果

翻訳作業が終了し、出版準備を行なっている。また作成した日本語版マニュアルを元に普及活動を行った。国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター主催の同治療に関する研修会を作成した。研修の資料作成は、オンラインでの検討を2022年8月、9月と計2回行った。また、こうした cultural adaptation の取り組みについて、2022年5月19日に開催される統合失調症に対する認知行動療法の研究者会議(通称 Beckfest)にて発表した。

D. 考察

精神療法の cultural adaptation は昨今治療の実装や普及における重要な課題である。質の良い翻訳マニュアルが作成されることで、専門家にとって用語体系が統一され、治療に対する理解も促進されることが期待される。

本研究では、合計15名の専門家と協力し

ながら、現在の認知行動療法の用語体系を踏襲しながら、新たな観点が理解しやすい形で翻訳することができた。

なし

今後統合失調症に対する認知行動療法が普及するために、また本治療により、統合失調症に対する集団精神療法の可能性が広がるために、重要な研究であったと言える。

E. 結論

本研究は、Recovery-oriented cognitive therapyの国民性や文化的な違いを超えた日本国内での普及において、今後の研究活動で活用される重要な取り組みであった。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 耕野敏樹：リカリーを目指す認知療法（CT-R）への期待：日本での適用の可能性，第22回日本認知行動療法学会，2022年12月2日
- 2) Toshiki Kono: Accounting for Cross-Population Differences in Allele Frequency and Linkage Disequilibrium Can Improve Polygenic Risk Score Portability. World Congress of Psychiatric Genetics. 2022年9月13～17日. ポスター発表

G. 知的所有権の取得状況(予定も含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他